

科目名・授業タイトル 政治・社会・経済（憲法）	授業の形式・方法 講義	担当教員 村松武 佐竹考太 他	
授業の回数 45 回	授業時数 90 時間	対象学年 1 年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

政治（憲法上の人権、統治機構を含む）・経済の基本について理解する。また社会学・社会政策・国際関係等の基本を理解する

## [到達目標]

政治・経済についての基本知識、政治体制、日本国憲法の特徴（基本的人権、統治機構）を正しく理解する。社会学の基本を理解する。社会に出るに当たり、正確な知識を身につけ、適切な判断ができること。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

### ①政治（16回）

1 政治の基本概念 2 政治制度論 3 政治過程論 4 日本国憲法の特徴 5 基本的人権総論・包括的基本権  
6 平等権・精神的自由権① 7 精神的自由権②・経済的自由権 8 人身の自由・社会権  
9 能動的権利と受益権 10 憲法改正の手続き 11～12 国会①② 13～14 内閣①② 15 裁判所  
16 地方自治

### ②社会（8回）

1 社会理論 2～3 労働問題①② 4～5 社会保障①② 6 環境問題 7～8 国際関係①②

### ③経済（16回）

1 経済社会の変容と経済体制 2 現代の企業 3～4 現代の市場①② 5～6 国民所得①②  
7 経済成長と景気循環 8～9 通貨制度と金融政策①② 10～11 財政制度と財政政策①②  
13 貿易と外国為替 14 日本経済の動向 15～16 国際経済の動向①②

### ④社会科学演習（5回）

1～5 社会科学演習①～⑤

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

テキスト政治・テキスト社会・テキスト経済（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 世界史	授業の形式・方法 講義	担当教員 長谷川正彦 佐竹考太 他	
授業の回数 15回	授業時数 30時間	対象学年 1年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

①西洋史・中国史全般の理解をすることを目的とする。②人物・出来事を正確に理解するとともに時系列を把握し、各時代の出来事について類似点、相違点を把握する。

## [到達目標]

西洋史・中国史上の人物・出来事を、正確に時系列で理解する。各時代の人物・出来事につき、類似点と相違点を正しく把握する。各時代についての記述を分析し、内容の正誤を判断することができる。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

- 1 古代～中世の概略
- 2～3 近代ヨーロッパ①②
- 4～5 16～18世紀のヨーロッパ①②
- 6～7 市民社会の成長①②
- 8～9 19世紀の欧米①②
- 10～11 現代世界①②
- 12 ヴェルサイユ体制
- 13 世界恐慌・ファシズムの台頭・第二次世界大戦
- 14～15 中国史①②

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

テキスト世界史（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 日本史	授業の形式・方法 講義	担当教員 村松 武 松村明彦 他	
授業の回数 15 回	授業時数 30 時間	対象学年 1 年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

日本史全般の理解をすることを目的とする。人物・出来事を正確に理解するとともに時系列を把握し、各時代の出来事について類似点、相違点を把握する。

## [到達目標]

日本史上の人物・出来事を、正確に時系列で理解する。各時代の人物・出来事につき、類似点と相違点を正しく把握する。各時代についての記述を分析し、内容の正誤を判断することができる。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

- 1 原始・古代①
- 2 古代②
- 3 古代③
- 4 中世①
- 5 中世②
- 6 確認テスト1・採点・解説・やり直し
- 7 近世①
- 8 近世②
- 9 近世③
- 10 近代①
- 11 近代②
- 12 近代③
- 13 近代④
- 14 現代
- 15 確認テスト2・採点・解説・やり直し

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

テキスト日本史（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 地理	授業の形式・方法 講義	担当教員 増谷麻由 佐竹考太 他	
授業の回数 15回	授業時数 30時間	対象学年 1年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

地理全般の理解をすることを目的とする。世界の地形や、世界各国における産業及び生活について類似点、相違点を把握する。日本における地形、農業、漁業、生活について把握する。

## [到達目標]

世界に広がる地形、気候区分や植生を正しく把握する。世界各国の農業や工業、漁業について相違点を理解し、正しく把握する。地理についての記述を分析し、内容の正誤を判断することができる。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

- 1 地形①
- 2 地形②
- 3 気候
- 4 土壌・地図
- 5 確認テスト①・採点・解説
- 6 食糧の生産と消費①
- 7 食糧の生産と消費②
- 8 確認テスト②・採点・解説
- 9 エネルギー資源と原材料
- 10 工業化と工業地域
- 11 確認テスト③・採点・解説
- 12 生活と地域①
- 13 生活と地域②
- 14 確認テスト④・採点・解説
- 15 日本の地理

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

テキスト地理（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 国語・文章理解	授業の形式・方法 講義	担当教員 増谷麻由 岡田圭介 他	
授業の回数 15回	授業時数 30時間	対象学年 1年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

文法や漢字・語句、文学史について理解すること、また文章を読んで内容把握する、文章構造を正確に理解することを目的とする。

## [到達目標]

国語：①文法や文学史の理解②漢字の正確な読み書き③語句の正確な理解、文章理解：①内容把握②文章整序③空欄補充、いずれも正確にできること。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

### ①国語 (5回)

- 1 文法①
- 2 文法②
- 3~5 漢字・語句①~③

### ②文章理解 (10回)

- 1~4 内容把握①~④
- 5~7 文章整序①~③
- 8 空欄補充①
- 9 空欄補充②
- 10 確認テスト・解説

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

テキスト国語・テキスト文章理解（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 物理・化学	授業の形式・方法 講義	担当教員 藤内亮平 福澤謙太郎 他	
授業の回数 15回	授業時数 30時間	対象学年 1年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

①物理・化学の基礎や基本的な計算問題を、テキストを通して理解し、把握していく。②定期的に確認テストを行い、理解度・習熟度を測る。③講師が現象を実演することで、知識の効果的な定着をめざす。

## [到達目標]

①物理・化学の基本を理解している。②公式・化学式について理解する。③基本的な問題を解くことができる。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

### ①物理（8回）

- 1～2 第1章（運動）
- 3 第2章（力）
- 4 確認テスト
- 5 第6章（熱）
- 6 第7章（波動）
- 7 第8章（電気）
- 8 確認テスト

### ②化学（7回）

- 1～2 第1章（物質の構造）
- 3 確認テスト
- 4～5 第2章（物質の状態）
- 6 第3章（物質の変化）
- 7 確認テスト

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

- テキスト物理（大原出版株式会社）
- テキスト化学（同）

科目名・授業タイトル 生物・地学	授業の形式・方法 講義	担当教員 村松 武 増谷麻由 他	
授業の回数 15 回	授業時数 30 時間	対象学年 1 年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

①生体の構造やしきみ、遺伝や身体の内部環境について理解する②地球、岩石、大気、宇宙について理解する③定期的に確認テストを行い、理解度・習熟度を測る。④タブレット端末を用いることで、知識の効果的な定着をめざ

## [到達目標]

生体の構造、代謝のしくみなどについて理解すること。また地球の構造、気象現象や惑星について分類して把握できること。生物、地学の基本事項を把握し、記述に対して内容の正誤を判断することが出来ること。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

### ①生物（8回）

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1 生体の構造        | 2 生体内の代謝           |
| 3 確認テスト①・採点・解説 | 4 生殖と発生、遺伝と変異      |
| 5 確認テスト②・採点・解説 | 6 刺激の受容と反応         |
| 7 内部環境の恒常性と調節  | 8 確認テスト③・採点・解説、まとめ |

### ②地学（7回）

- 1～2 地球の姿と動く大地①②    3 岩石（火成岩とマグマ）  
4～5 大気と海洋①②    6～7太陽系と宇宙の構造①②

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

テキスト生物・テキスト地学（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 判断推理・空間把握	授業の形式・方法 講義・演習	担当教員 福澤謙太郎 松村明彦 他	
授業の回数 30回	授業時数 60時間	対象学年 1年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

論理的な思考力により、情報を整理、処理できる力を養う。

## [到達目標]

与えられた情報を正確に理解する。

情報を整理し、論理的思考によって正しい結論を導くことができる。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

1 対応	2~3 論理
4 推理・手順	5~6 集合の要素の個数
7 問題演習	8 勝敗
9 暗号	10 ウソの証言
11 順序	12 位置と方位
13 問題演習	14 試験
15 一筆書き・道順・位相	16 平面構成
17 折り紙	18~19 回転の軌跡
20 問題演習	21 正多面体
22~23 展開図	24 サイコロ
25 積み木	26 立体の切断
27 見取り図・投影図	28 回転体
29 問題演習	30 試験

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

テキスト判断推理（大原出版株式会社）



科目名・授業タイトル 数的推理・図形	授業の形式・方法 講義・演習	担当教員 佐竹考太 藤内亮平 他	
授業の回数 30回	授業時数 60時間	対象学年 1年	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

基礎的な計算力を身に付け、設問から課題を解決する方法を導き出す力を身に付ける。  
また、数学力を利用し、効率的にデータの分析を行える能力を習得する。

## [到達目標]

四則演算、方程式などがミスなく解ける。  
文章問題の出題意図を素早くつかみ、正しい解答を導き出すことができる。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

1~3 方程式・不等式①~③	4 確認テスト①	解説・やり直し
5~8 整数・計算パズル①~④	9 確認テスト②	解説・やり直し
10~12 割合と比①~③	13 確認テスト③	解説・やり直し
14~17 速さ①~④	18 確認テスト④	解説・やり直し
19~20 仕事算①②	21 確認テスト⑤	解説・やり直し
22~25 場合の数①~④	26 確認テスト⑤	解説・やり直し
27~29 確率①~③	30 確認テスト⑥	解説・やり直し

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

テキスト 数的処理 数的推理編（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 教養総合演習	授業の形式・方法 講義・演習	担当教員 増谷麻由 村松 武 他	
授業の回数 60回	授業時数 120時間	対象学年 1年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

就職活動、また就職後の社会生活に求められる一般知能・一般知識の習得を目的とする。  
知能科目及び知識科目について、習熟度を把握する。

## [到達目標]

就職活動、また就職後の社会生活に求められる一般知能・一般知識の習得をする。  
知能科目及び知識科目について、習熟度を把握する。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

以下の演習（模擬試験）を行なう。

- 1～30 直前模擬試験公務員総合  
公務員模擬試験初級  
公開模擬試験一般職  
実力判定試験一般職  
直前模擬試験一般職  
まとめ

※模擬試験は使用例を示す。

※1回の模擬試験につき、授業2回をあてる。

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、取組姿勢が適切と判断される場合、模擬試験の得点に基づく指標により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

各種模擬試験（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 論作文	授業の形式・方法 実習	担当教員 増谷麻由 佐竹考太 他	
授業の回数 15回	授業時数 30時間	対象学年 1年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

論作文の書き方を理解することを目的とする。  
正しい日本語表現を身につけ、自分の考えなどを書き表す。

## [到達目標]

文章表記や文章の構成を正確に理解する。  
志望先に関する情報収集を行うことができる。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

ビジネス社会で求められる文章能力を高めていくこと。文字の美しさ、文法上の正確さ、構成力、表現力、内容等の改善を図ること。日頃から、自己分析や官公庁の業務把握を行うこと。

## [授業計画と内容]

- 1～3 論作文の基礎①～③
- 4 文章作成①・採点・解説・やり直し
- 5～9 情報収集①～⑤
- 10 文章作成②・採点・解説・やり直し
- 11 論作文①
- 12 採点・解説・やり直し
- 13 論作文②
- 14 採点・解説・やり直し
- 15 まとめ

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出、取組姿勢、作品の水準により評価する。

## [使用教材等]

テキスト論作文（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 教養総合講義	授業の形式・方法 講義	担当教員 長谷川正彦 福澤謙太郎 他	
授業の回数 30回	授業時数 60時間	対象学年 1年前期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

就職活動及び就職後、社会生活で求められる一般知能、一般知識の習得を目的とする。  
知能科目及び知識科目について、習熟度を把握する。

## [到達目標]

就職活動及び就職後、社会生活で求められる一般知能、一般知識の習得すること。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回の授業までに問題集を使い、学習範囲内の問題を解いて理解しておくこと。

## [授業計画と内容]

以下の演習内容につき、講師による解説を行う。

- 1～30 直前模擬試験公務員総合  
公務員模擬試験初級  
公開模擬試験一般職  
実力判定試験一般職  
直前模擬試験一般職  
まとめ

※模擬試験は使用例を示す。

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、取組姿勢が適切と判断される場合、講義後に行われる模擬試験の得点に基づき、次の通り評価する。

優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

各種模擬試験（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル ビジネス実習 I	授業の形式・方法 実習	担当教員 藤内亮平 岡田圭介 他	
授業の回数 30 回	授業時数 60 時間	対象学年 1 年前期・後期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

社会において求められる基礎行動力、職場の基礎能力を習得する。職場で求められるPC能力を身につける。企業担当者との実習によって、官公庁・企業での就労に役立つ能力の習得を目的とする。

## [到達目標]

社会人としての基礎的な思考、振る舞いができる。社会人基本レベルのPC能力を身につける。官公庁での勤務を前提に、実社会の事象、問題点について検討分析し、解決手法を提案できる能力を身につける。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

授業で行った課題と同水準のものを復習すること。操作が苦手な者、PCに触れる機会が少ない者は、放課後に学校所有の機材で復習することを薦める。

## [授業計画と内容]

### ◇前期

#### ①基礎行動実習（5回）

1 概論 2～3 規律訓練②③ 4～5 グループワーク②③

#### ②職場の基礎能力（10回）

1～2 自己管理能力①② 3～4 協調行動力①② 5～10 IT活用力①～⑥

### ◇後期

#### ③Word検定対策（5回）

1 タイピング練習 2 ファイルサーバー 3 ダウンロード・保存 4 文書の編集・表の挿入 5 印刷設定

#### ④Excel実践（2回）

1 ワークシート・数式 2 連続データ

#### ⑤PowerPoint実践（2回）

1 画面要素と基本操作 2 プレゼンテーション作成

#### ⑥連携企業等による実習授業（6回）

1 企業実習① 2 分析と振り返り① 3 課題作成①

4 企業実習② 5 分析と振り返り② 6 課題作成②

## [成績評価の方法と基準]

出席、取組姿勢、課題提出、本試験成績による。前三者に問題が無く、検定試験に合格した者は優とし、不合格の者は良とする。前三者が十分でない者でも、努力の姿勢が認められた者は可とする。その余の者は不可とする。

## [使用教材等]

Word&Excel 2016（実教出版）

Word文書処理技能認定試験3級問題集（サーティファイ）

科目名・授業タイトル ビジネス実習Ⅱ	授業の形式・方法 実習	担当教員 村松 武 増谷麻由 他	
授業の回数 30回	授業時数 60時間	対象学年 1年後期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

ビジネス社会における理想的な就労のあり方を学ぶ。また職場において求められる実務能力、とりわけ理想的なマナー、振る舞い、接遇技術、電話対応技術を実習し、習得することで職業倫理観を身につける。

## [到達目標]

現実社会での就労問題を知り、正社員として理想的な就労意識、姿勢を理解する。

ビジネス社会における理想的なマナー、振舞、接遇技術、電話対応技術を理解し、実践できる。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

官公庁への就職を目指す者として、就労問題に関心を持つこと。新聞や書籍で理解を深めること。就労先で求められるビジネスマナー、スキルの習得に向けて意識を高め、実践を重ねること。

## [授業計画と内容]

### ①PCPビジネスマナー (26回)

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1~2 職場のマナー①②     | 3~4 仕事の進め方①②     |
| 5~6 「ほう・れん・そう」①② | 7~8 挨拶の種類①②      |
| 9 笑顔・お辞儀         | 10~12 正しい敬語①~③   |
| 13~16 対応の基本①~④   | 17~18 電話対応のマナー①② |
| 19 電話の受け方        | 20 電話のかけ方        |
| 21~24 状況別電話対応①~④ | 25 電話対応練習        |
| 26 電話対応実技(実践)    |                  |

### ②就労事例研究 (4回)

- 事例研究①
- 課題作成①
- 事例研究②
- 課題作成②

## [成績評価の方法と基準]

出席、取組姿勢、課題提出、課題成果により評価する。前三者に問題が無く、課題の出来が優れている者は優、良好な者は良とする。当初の出来が不十分ながらも再度の取組で良好な成績を修めた者は可とし、その余の者は不可

## [使用教材等]

ビジネスマナー (大原出版)

事例研究については、担当者により指示をする。

科目名・授業タイトル ビジネス実習Ⅲ	授業の形式・方法 実習	担当教員 長谷川正彦 福澤謙太郎 他	
授業の回数 30回	授業時数 60時間	対象学年 1年後期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

ビジネス社会で求められる自己表現、プレゼンテーション技法を身につける。就職活動および就職後に、相手の考えを正しく理解するとともに、自らの意見を適切かつ効果的に伝えられることを目的とする。

## [到達目標]

ビジネス社会で求められる自己表現、プレゼンテーション技法を身につける。就職活動および就職後に、相手の考えを正しく理解するとともに、自らの意見を適切かつ効果的に伝えられることを目的とする。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回授業までに指導を受けた内容を改善すること。職業研究については、自発的に対象を見つけて日頃より研究を行うこと。自己表現に自信を持つため、他者との交流機会を増やしていくこと。

## [授業計画と内容]

- 1～5 自己PR
- 6～10 志望動機
- 11～15 希望業務
- 16～20 グループ討論
- 21～30 面接練習

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、取組姿勢、報告により評価する。いずれも満足する成果を上げ、公に認められた者を優とする。また、いずれも満足する成果を上げた者は良とし、それに準ずる者は可とする。その余の者は不可とする。

## [使用教材等]

就職ガイドブック・就職ノートブック（大原出版株式会社）

科目名・授業タイトル 民法	授業の形式・方法 講義	担当教員 長谷川正彦 村松 武 他	
授業の回数 15回	授業時数 30時間	対象学年 1年後期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

民法の基礎を学習することにより、法的思考力を身に着ける。

## [到達目標]

民法の趣旨、基本条文を解釈できる。

日々の生活がどのように法律により規定されているかを理解できる。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回授業までに学習内容を復習し、理解を深めること。

## [授業計画と内容]

1. 民法とは（公法と私法の違い、私法の一般法としての位置づけ）
- 2～3. 総則（権利能力・意思能力・制限行為能力者）
4. 総則（意思表示）
- 5～6. 総則（代理）
7. 総則（時効）
- 8～9. 親族（婚姻・離婚）
- 10～11. 親族（親子・養子）
- 12～15. 相続・遺贈

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

大原出版 宅建士民法テキスト  
行政書士民法テキスト



科目名・授業タイトル 刑法	授業の形式・方法 講義	担当教員 村松 武 他	
授業の回数 15 回	授業時数 30 時間	対象学年 1 年後期	必修/選択 必修

## [目的・ねらい]

刑法の全体像を把握するとともに、刑法総論全般と各論の主要な内容を理解する。

## [到達目標]

刑法の全体像を把握する。刑法概念、罪刑法定主義、刑法の適用範囲、犯罪の成立要件を正確に理解する。総論の基本論点、各論の主要論点を理解する。刑法以外の法適用時に、応用する力を身につける。

## [履修にあたっての留意点]

欠席・忘れ物をしないこと。欠席時は次回授業までにフォローするとともに、担当教員を訪ね、指示内容を確認すること。

## [授業時間外に必要な学修内容]

次回授業までに学習内容を復習し、理解を深めること。

## [授業計画と内容]

- 1 刑法の概念
- 2 罪刑法定主義
- 3 刑法の適用範囲
- 4 犯罪の成立要件
- 5~7 犯罪の成立・不成立①~③
- 8 未遂犯
- 9 中止犯・不能犯
- 10 共犯
- 11 刑罰
- 12~13 生命・身体に対する罪①②
- 14 自由及び私生活の平穩に対する罪
- 15 財産に対する罪・まとめ

## [成績評価の方法と基準]

出席状況、課題提出状況、取組姿勢が適切と判断される場合、定期試験の成績により次の通り評価する。優：90点以上、良：80点以上、可：60点以上、不可：60点未満

## [使用教材等]

『刑法の基礎』（大原法律公務員専門学校浜松校）